



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2000(Vol.1, No.1)

創刊にあたって

代表世話人 大河原良雄

早いもので当フォーラムが大来佐武郎元外相を初代代表世話人として、世界各国、各地域との政策志向の知的対話を、経済人、有識者、政界人等の専門分野を異にする横断的な幅広い交流をつうじて組織するようになってから、もう17年になります(右欄「開催した主な国際会議」参照)。その間海外の著名な研究機関等との交流を深めることが出来たのは、一に会員各位の熱意の然らしめるところと深く感謝しております。

フォーラムはこれまでひたすらその交流や対話の実績を重ねることのみに終始し、広報活動のようなことはまったくしてまいりませんでした。今回



17年目にして初めてその「会報」を創刊することといたしました。会報は、フォーラムのメンバーだけでなく、国際関係の動きについて関心を共有する各方面の識者や団体の皆さんにも広くお届けしたいと考えております。

21世紀の国際社会はますますさまざまな世界的課題に直面することは必至です。この「会報」をつうじてより多くの皆さんと問題意識を共有してゆることができればと望んでおります。

世話人・事務局長紹介

現時点の当フォーラム世話人、事務局長は、つぎの9名であるが、1月21日開催予定の次回世話人会で、有識者世話人、政界人世話人各1名が追加選任される見込み。

【代表世話人】大河原良雄

【経済人世話人】豊田章一郎
羽倉 信也
茂木友三郎

【有識者世話人】大河原良雄
伊藤 憲一
島田 晴雄

【政界人世話人】小淵 恵三
石井 一二
鳩山由紀夫

【事務局長】伊藤 憲一

島田晴雄世話人を囲んで

「グローバル・フォーラム」はその姉妹団体である「日本国際フォーラム」や「日本予防外交センター」



と共に、その役員等を対象に毎月「国際政経懇話会」を開催しているが、さる11月12日には当フォーラム世話人であり沖縄有識者懇談会座長を務める島田晴雄慶應義塾大学教授(写真)を講師に招き、「沖縄問題を考える」と題して、沖縄が抱えている経済自立や基地縮小などの諸問題について、沖縄・本土・米国三者間の表裏あやなす関係をオフレコベースで自在に語ってもらった。

一開催した主な国際会議一

【四極フォーラム日本会議時代】

- 1982年 9月「1980年代における西側先進諸国に対する脅威」(ワシントン)
- 1983年 4月「西側先進諸国の課題：貿易と国際金融」(ワシントン) / 7月「1980年代におけるソ連の行動の源泉」(東京)
- 1984年 3月「競争と協力：西側先進諸国の展望」(ワシントン)
- 1985年 4月「ボン・サミットと日米欧加の展望」(プラッセル)
- 1986年 4月「東京サミットと日米欧加の展望」(東京)
- 1987年 4月「ベネチア・サミットと日米欧加の展望」(ワシントン) / 6月「レーガン政権を内部から語る」(東京) / 7月「世界貿易システムのゆくえ」(東京) / 9月「農業・農産物をめぐる国際経済問題の展望」(東京) / 10月「ヴェニス・サミット後の国際経済情勢」(東京)
- 1988年 4月「トロント・サミットと日米欧加の展望」(トロント) / 6月「日米関係のゆくえ」(東京) / 9月「米ソ関係の新展開と日本」(東京) / 10月「デュカキスとは何者か」(東京)
- 1989年 4月「1990年代：その危機的変化」(プラッセル) / 9月「変動する国際環境と日米関係」(東京) / 10月「金融大国日本の可能性とドルの将来」(東京) / 12月「ゴルバチョフと欧州安全保障」(東京)
- 1990年 6月「西側は試練に対処し得るか」(ワシントン) / 9月「地政学から地経学へ」(東京) / 10月「対ソ・対中東政策と日米のグローバル・パートナーシップ」(東京)
- 1991年 3月「日本の市場開放の戦略的意味」(東京) / 4月「湾岸戦争と日米同盟への影響」(東京)

【グローバル・フォーラム日本会議時代】

- 1991年 5月「湾岸戦争後の米国の中東政策」(東京) / 10月「ウルグアイ・ラウンドと湾岸戦争を越えて一新世界秩序の中のリーダーシップ」(ワシントン)
- 1992年 1月「1990年代の日米関係」(東京) / 4月「東アジアにおける日米協力」(東京) / 4月「環境問題における日米協力」(東京) / 5月「環境問題における日米協力」(ワシントン)

(2頁へ続く)

日台対話開催さる 「21世紀の国際社会における台湾の役割」

当フォーラムは、さる11月4—5日東京において、台湾の中華欧亜文教基金会との共催により、日台対話「21世紀の国際社会における台湾の役割」を開催した(写真)。

同対話には、日本側から岡崎久彦博報堂特別顧問、真野輝彦東銀リサーチインターナショナル参与、山本卓眞富士通名誉会長、若林正丈東京大学教授、伊藤憲一当フォーラム世話人事務局長、台湾側から曾永賢中華欧亜文教基金会執行長兼台湾総統府国策顧問、趙春山政治大学大学院教授、陳添枝台湾大学教授、陳博志台湾大学教授、林佳龍中正大学助教授の計10名のパネリストに加え、当フォーラム・メンバー等51名が参加した。

セッション I では「中台関係の展望と地域の安定」をテーマに、趙春山教授から「李登輝総統の『特殊な国と国との関係』発言は、台湾の大陸政策の変更を意味するものではない。中台関係の不安定は米中関係や地域のバ

ワー・バランスに影響を及ぼす。我々は兩岸関係の発展を望んでおり、台湾の存在価値が認められることを望む。台湾には兩岸の良好な関係を築く能力と意志がある」との基調報告が、また本会議 II では「グローバル化時代における台湾経済」をテーマに、真野輝彦氏から「急速な資金移動が実体経済を破壊している。何でも自由化というのではなく、発展段階に応じた対応が必要である。日本はアジアの国々が雁行的に発展する中で、ある程度発展した国との自由貿易協定を考えてもよい。台湾はその最初の国の一つである」との基調報告が、それぞれなされた。

基調報告のあとの自由討論では「中国は、内戦の論理から離れ、国際社会で台湾とどう共存していけばこの地域の平和と繁栄に役立つのかという観点に立ってほしい」「日本と台湾はアジア地域における自由貿易地域の創設について協力すべきだ」等の意見が活発に提起された。



事務局便り

「日台対話」準備最中の9月21日、「台湾で大地震発生！」の報が飛び込んできました。事務局員一同、わがことのように心を痛めていたところ、共催相手の中華欧亜文教基金会から「関係者一同無事」との知らせが入り、やっと安堵しました。

その「日台対話」も無事終わり、本当の意味でいまは二重の安堵です。

賛助会費納入企業の紹介

グローバル・フォーラムの主要な財政基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属企業(下記)の納入する賛助会費にある。

ここに特記して、謝意を表したい。

〔経済人世話人所属企業(各5口)〕

トヨタ自動車 第一勧業銀行
キッコーマン

〔経済人メンバー所属企業(各1口)〕

住友電気工業 鹿島建設
新日本製鐵 東京電力
東京三菱銀行 さくら銀行
富士通 旭硝子
ブリヂストン 日本電信電話
東京海上火災保険 富士ゼロックス
日本原子力発電 松下電器産業
東燃 (入会日付順)

一開催した主な国際会議(続き)

- ／6月「地域主義と民間セクター」(東京)／6月「アジア太平洋協力：平和と繁栄のための枠組の構築」(東京)／7月「地域主義の将来」(ワシントン)／10月「地域主義・環境・アジア協力」(東京)
- 1993年4月「社会主義経済の市場経済への移行」(東京)／5月「地域主義の将来」(東京)／6月「社会主義経済の市場経済への移行」(ワシントン)／12月「新しい現実に直面する国際秩序」(ワシントン)
- 1994年1月「国際企業と環境技術協力」(ワシントン)／4月「冷戦後日米関係の展望」(東京)／6月「雇用と世界経済」(東京)／9月「貿易システムの将来」(東京)／9月「ロシアの将来：アジアとヨーロッパにとっての意味」(東京)／10月「金日成後の北朝鮮」(ワシントン)／11月「来るべき太平洋の世紀：神話と現実」(東京)
- 1995年3月「日米同盟に未来はあるか」(東京)／7月「中国の将来」(東京)／9月「EUとAPEC：世界経済にとっての意味」(東京)／10月「北朝鮮情勢の展望：論点と趨勢」(東京)／12月「1990年代半ばにおける世界的統合：挑戦と機会」(ワシントン)

【グローバル・フォーラム時代】

- 1996年1月「アジアにおける日米同盟の役割」(東京)／5月「地球規模の諸問題をめぐる日欧協力の可能性」(東京)／7月「日米同盟とその東アジアにとっての意味」(東京)／9月「変化するアジア太平洋と日比関係」(東京)／10月「21世紀における日印協力の展望」(東京)／11月「アジアにおける勢力均衡の変化」(東京)／12月「チェチェンの声を聞く」(東京)
- 1997年3月「変化するアジア太平洋の戦略環境」(東京)／5月「変化する世界における国家と民族」(東京)／9月「中台港三角関係の展望」(東京)／11月「変化する世界におけるアジア太平洋の課題：貿易と安全保障」(東京)
- 1998年5月「欧州の将来とアジア、とくに日本」(東京)／9月「アジアの安定と日中両国の役割」(東京)／11月「21世紀世界秩序の形成：政治と経済」(東京)
- 1999年5月「法の支配とそのアジアにおける受容」(東京)／7月「中東欧におけるNATO・EU拡大の影響」(東京)／11月「21世紀の国際社会における台湾の役割」(東京)



グローバル・フォーラム会報
2000年冬季号
(第1巻 第1号 通巻第1号)

発行日 2000年1月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 山元 哲史

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfir@mars.dti.ne.jp
[Fax] 03-3589-5120